

平成 25 年 度

運 営 に 関 す る 計 画

大阪市立榎本小学校

大阪市立榎本小学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

学校目標 『生き抜く力』を育成する教育活動を創造する**一子どもに寄り添い、自尊感情を高める一」の達成にむけて**

平成23・24年度の取り組み(資料1「3年間を見通した平成23・24年度の取組み」参照)をうけて、以下のように運営の計画を設定した。

【視点 学力の向上】

“無答率を下げることは、各教科の各領域の正答率を高めることが大前提である”という基本的な考え方に立って、以下の目標を設定した。

<国語>

- ①「平成24年度全国学力・学習状況調査」(以後、「学テ」)結果で明らかになった、「話すこと・聞くこと」(A問題)正答率を「27年度学テ」で、全校・市平均を上回る90%にまで高める。また、「読むこと」(B問題)の正答率を「27年度学テ」で、全校・市平均を上回る80%までに高める。(ポイント上昇率は、1年間で約10%と設定)(カリキュラム改革関連)
- ②「24年度学テ・児童質問紙」50.51番の「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」を、80%に高める。ちなみに、「24年度学テ」の50.51番の合計は、62%と60%。(ポイント上昇率は、1年間で約10%と設定)(カリキュラム改革関連)
- ③全児童対象の「24年度学校アンケート」(以下、「24年度アンケート」)では、家で読書している数値が低い。「学級文庫」の蔵書数を、現在の各学級平均20冊を、27年度には100冊(一人平均3冊)に増やす。(1年間で、約40冊増書に設定)(マネジメント改革関連)
- ④図書館ボランティアの人数が、24年度20名おられる。27年度には50名にしたい。(年間10名ずつの増加をする)(カリキュラム改革・サポート改革関連)

<算数>

- ①「24年度学テ」で、A・B問題共に低い正答率であった「数と計算」領域を、「27年度学テ」で、共に80%にまで高める。(ポイント上昇率は、1年間で約10%と設定)(カリキュラム改革関連)
- ②「24年度学テ・児童質問紙」56.58番の「あてはまる」を、「27年度学テ」で、それぞれ、50%、60%に高める。ちなみに、「24年度学テ」の結果は、29%、38%である。(ポイント上昇率は、1年間で約10%と設定)(カリキュラム改革関連)
- ③「24年度学テ・児童質問紙」64.65番の「あてはまる」を、「27年度学テ」で、それぞれ、60%、80%に高める。ちなみに、「24年度学テ」の結果は、33%と44%である。(ポイント上昇率は、1年間で約10%と設定)(カリキュラム改革関連)

<理科>

- ①「24年度学テ」で、低い正答率であった「地球」(47.6%)を、「27年度学テ」で、70%に高める。(ポイント上昇率は、1年間で約10%と設定)好結果であった「生命」の数値もさらに高める。(カリキュラム改革関連)
- ②「24年度学テ・児童質問紙」72番(34.2%)75番(18.9%)78番(42.3%)を、それぞれ、55%、40%、60%に高める。(カリキュラム改革関連)

- ③ 「えのもとの森」の活用を通して、「生命」「地球」領域の学習につなげるとともに、低学年から自然環境に対する興味・関心の芽生えをつくる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

“「学校・家庭・地域」総がかりの関係性の中で、子どもは育つ”という基本的な考え方にたつて、以下の目標を設定した。

- ① 「24年度学テ・児童質問紙」の結果より、28～36番の「あてはまる」を、それぞれ、1年間で約10%の上昇、と設定(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ② 「24年度アンケート」の結果、「私にはいいところがある」の「よくあてはまる」(低…39%、高…7%)「学校のきまりや約束をまもっている」の「よくあてはまる」(低…30%、高…16%)を、毎年、10ポイントずつ増加させる。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ③ 本校の「24年度いじめアンケート」(以下、「いじめアンケート」)の「仲間はずれにされる」「お金をとられる」「メールや携帯電話で嫌なことを言われる」が、ごく少数ある。27年度の「いじめアンケート」では、「0」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ④ 生活指導上の対応件数が、24年度は「ほぼ毎日5～10件」であった。この件数を、27年度には、「0」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ⑤ 「生徒指導上の諸問題に関する調査」項目の「暴力」「いじめ」「不登校」を、27年度には、「すべて0」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ⑥ けが等での保健室対応件数が、24年度は「毎日約30件」に上った。この件数を、27年度には、「毎日約10件」に減らす。(年間、10件ずつ減らす。)(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ⑦ 地域・外部団体との連携を図り、「えのもとの森」の活用を通して、ふれあいを深める。
(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

“自らの健康・体力に関心をもち、保持増進に努める子の育成”という基本的な考えにたつて、以下の目標を設定した。

- ① 「24年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(以後、「体テ」)で、男子は8種目中5種目が、女子は8種目中4種目が、全国・市の平均を下回っていた。27年度の「体テ」には、男女ともに、全国・市の平均を上回るようにする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ② 「24年度アンケート」の「朝食を食べて登校している」の「あてはまらない」「まったくあてはまらない」が、「低…5%、高…3%」を、27年度には、「低…0%、高…0%」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)

【視点 教職員の資質向上】

- ① 「24年度学校アンケート」の設問「授業がわかる」の結果で、「よくあてはまる」が、「低…36%、高…20%」を、27年度には、「低…80%、高…80%」にする。(カリキュラム改革関連)
- ② 生活指導上の対応件数が、24年度は「ほぼ毎日5～10件」であった。この件数を、27年度には、「0」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ③ 「27年度授業アンケート」で、「お子さまは、授業の内容がわかるようになっていきますか」の項目について、「そう思う」と回答する保護者の割合を、全学年で70%以上にする。

【視点 学力の向上】

<国語>

- ① 「平成 24 年度学テ」結果で明らかになった、「話すこと・聞くこと」(A問題) 正答率を「26 年度学テ」で、全校・市平均を上回る 80%にまで高める。また、「読むこと」(B問題) の正答率を「26 年度学テ」で全校・市平均を上回る 70%までに高める。(カリキュラム改革関連)
- ② 24 年度学テ・児童質問紙」50.51 番の「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」を、70%に高める。(カリキュラム改革関連)
- ③ 「24 年度アンケート」では、家で読書している数値が低く、「学級文庫」の蔵書数を、現在の各学級平均 20 冊を、27 年度には 100 冊 (一人平均 3 冊) に増やす。(1 年間で、約 40 冊増書に設定) (マネジメント改革関連)
- ④ 20 名の図書館ボランティアの人数を、25 年度には 30 名に増員できるように、保護者への呼びかけを図る。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)

<算数>

- ① 「24 年度学テ」で、A・B問題共に低い正答率であった「数と計算」領域を、「25 年度学テ」で、共に 70%にまで高める。(カリキュラム改革関連)
- ② 24 年度学テ・児童質問紙」56.58 番の「あてはまる」を、「25 年度学テ」で、それぞれ、40%、50%に高める。(カリキュラム改革関連)
- 「24 年度学テ・児童質問紙」64.65 番の「あてはまる」を、「25 年度学テ」で、それぞれ、50%、70%に高める。(カリキュラム改革関連)

<理科>

- ① 24 年度学テ」で、低い正答率であった「地球」(47.6%) を、「25 年度学テ」で、60%に高めるとともに、好結果であった「生命」の数値もさらに高める。(カリキュラム改革関連)
- ② 24 年度学テ・児童質問紙」72 番 (34.2%) 75 番 (18.9%) 78 番 (42.3%) を、それぞれ、45%、30%、50%に高める。(カリキュラム改革関連)
- ③ 「えのもとの森」の活用を通して、高学年の「生命」「地球」領域の学習につなげるとともに、低学年から自然環境に対する興味・関心の芽生えをつくる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 「24 年度学テ・児童質問紙」の結果より、28~36 番の「あてはまる」を、それぞれ、約 10% 上昇させる。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ② 「24 年度アンケート」の結果、「私にはいいところがある」の「よくあてはまる」(低…39%、高…7%) 「学校のきまりや約束をまもっている」の「よくあてはまる」(低…30%、高…16%) を、10 ポイントずつ増加させる。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ③ 本校の「24 年度いじめアンケート」の「仲間はずれにされる」「お金をとられる」「メールや携帯電話で嫌なことを言われる」が、ごく少数ある。25 年度の「いじめアンケート」では、「0」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ④ 地域・外部団体との連携を図り、「えのもとの森」の活用を通して、ふれあいを深める。
(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)

- ⑤ 生活指導上の対応件数が、24年度は「ほぼ毎日5～10件」であった。この件数を、25年度には、「毎日3件」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ⑥ 「生徒指導上の諸問題に関する調査」項目の「暴力」「いじめ」「不登校」を、25年度には、「すべて0」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ⑦ けが等での保健室対応件数が、24年度は「毎日約30件」に上った。この件数を、25年度には、「毎日約20件」に減らす。(年間、10件ずつ減らす。)(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 「24年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で、男子は8種目中5種目が、女子は8種目中4種目が、全国・市の平均を下回っていたが、25年度の「体テ」には、男女ともに、全国・市の平均を上回るようにする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ② 「24年度アンケート」の「朝食を食べて登校している」の「あてはまらない」「まったくあてはまらない」が、「低…5%、高…3%」を、25年度には、「低…0%、高…0%」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)

【視点 教職員の資質向上】

- ① 「24年度学校アンケート」の設問「授業がわかる」の結果で、「よくあてはまる」が、「低…36%、高…20%」を、25年度には、「低…50%、高…50%」にする。(カリキュラム改革関連)
- ② 生活指導上の対応件数が、24年度は「ほぼ毎日5～10件」であった。この件数を、25年度には、「毎日3件」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ③ 「25年度授業アンケート」で、「お子さまは、授業の内容がわかるようになっていきますか」の項目について、「そう思う」と回答する保護者の割合を、全学年で60%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立榎本小学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>① 本年度の学習理解度到達診断における正答率8割以上の児童の割合を、全学年で昨年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 本年度の本校の「学校アンケート」で、「授業がわかる」の項目について、「よくあてはまる」と回答する児童の割合を、低学年…50%、高学年…50%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 「25年度授業アンケート」で、「お子さまは、授業の内容がわかるようになっていきますか」の項目について、「そう思う」と回答する保護者の割合を、全学年で60%以上にする。 (マネジメント改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【習熟度別少人数授業の実施】</p> <p>国語科・算数科における習熟度別クラス編成時にレディネステストや児童アンケートを実施し、適正なクラス編成をするとともに、教材の開発を行う。</p> <p>指標 単元ごとにレディネステストやアンケートをもとにクラス編成を行う。</p>	
<p>取組内容②【言語力や論理的思考能力の育成】</p> <p>読解、記述、コミュニケーションなど、多様な言語活動を、各教科において実施する。</p> <p>指標 言語活動の取組みを、全ての学年で計画的に行う。</p>	
<p>取組内容③【家庭・地域・外部各種団体との連携推進】</p> <p>図書の読み聞かせや各教科学習の理解を図るために、家庭・地域・外部諸団体との連携を図る。</p> <p>指標 P T Aや地域・各種団体・学生などのボランティアを30名以上集める。</p>	
<p>取組内容④【研究授業を伴う校内研修の充実】</p> <p>全学年・ひまわり学級で研究授業を実施するとともに、各種研修会を行い、授業力・対応力の向上に取り組む。</p> <p>指標 年間7回以上の研究授業を実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【研究授業を伴う若手教員の育成】</p> <p>全教職員総がかりで、校内、若手教員の育成に取り組む。</p> <p>指標 全若手教員が、研究授業を実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立榎本小学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>① 本年度の本校「学校アンケート」の「友だちとなかよくできている」「私にはいいところがある」等の項目について、「よくあてはまる」と回答する児童の割合を、昨年度より10ポイント以上増加させる。(カリキュラム改革・サポート改革関連)</p> <p>② 本年度の本校「いじめアンケート」の「仲間はずれにされる」「嫌なことをいわれる」等の項目について、「0」になるようにする。(カリキュラム改革・サポート改革関連)</p> <p>③ 生活指導上の対応件数を、「毎日3件程度」に減らすとともに、けが等での保健室対応件数を、「毎日20件程度」に減らす。(カリキュラム改革・サポート改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【道徳教育の推進】</p> <p>児童会を中心に「あいさつ運動」を実施し、自ら進んで元気にあいさつができるように指導するとともに、学校のきまりを守るための強調習慣を設ける。</p> <p>指標 「あいさつ運動」や強調習慣を、チェックカードをもとに振り返る。</p>	
<p>取組内容②【外部諸機関との連携】</p> <p>地域・近隣学校園・外部諸団体と連携して、「えのもとの森」の活用を図り、人と自然とのふれあいを深める。</p> <p>指標 月に1回、「えのもとの森」で、連携した教育活動を創造する。</p>	
<p>取組内容③【特別活動】</p> <p>「縦割り班」や「分団班」編成により、異学年交流を深める。</p> <p>指標 月に1回、縦割り班活動を実施するとともに、毎日の分団班活動を充実する。</p>	
<p>取組内容④【防災教育の推進】</p> <p>「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。</p> <p>指標 通常の避難訓練と保護者・地域・近隣校園との合同避難訓練を実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【いじめへの対応】</p> <p>校内体制を中心に、全教職員で共通理解を図り、対策を講じる。</p> <p>指標 「いじめアンケート」を学期に1回実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立榎本小学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>① 本年度の校内体力調査において、昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査より、全学年で向上させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 本年度の本校の「生活調査」で、全学年で昨年度より好結果になるようにする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 本年度の本校の「学校アンケート」で、「朝食を食べていますか」等の項目について、「よくあてはまる」と回答する児童が、昨年度よりも、10ポイント以上増えるようにする。 (カリキュラム改革・サポート改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【体育的活動の充実】</p> <p>外遊びやなわとび週間・かけ足週間を活用し、体力向上への意識を高める。</p> <p>指標 学年ごと、また全校でのなわとび・かけ足を日常的に実施する。</p>	
<p>取組内容②【体育科授業の充実】</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣調査より明らかになった課題解決にむけて、授業を計画的に行う。</p> <p>指標 全学年が、年間指導計画に基づいて授業を行う。</p>	
<p>取組内容③【健康な生活習慣の確立】</p> <p>手洗い・うがい・身だしなみの習慣が身につくように指導する。</p> <p>指標 チェックカードを活用して、振り返りを行う。</p>	
<p>取組内容④【健康な生活習慣の確立】</p> <p>病気やけがの防止について、「保健だより」等で啓発活動を行っていく。</p> <p>指標 「保健だより」を月1回発行する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立榎本小学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 教職員の資質向上】</p> <p>① 本年度「学校アンケート」の「授業がわかる」の項目について、「よくあてはまる」が、昨年度より増えるようにする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 本年度「授業アンケート」で、「お子さまは、授業の内容がわかるようになっていきますか」の項目について、「そう思う」と回答する保護者の割合を、全学年で60%以上にする。 (マネジメント改革関連)</p> <p>③ 毎日の生活指導上の対応件数が、昨年度より減るようにする。 (マネジメント改革関連)</p> <p>④ 本年度「授業アンケート」で、「学校は楽しいですか」の項目について、「そう思う」と回答する児童の割合を、80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【コンプライアンスの意識を高める】 教育公務員としてのあるべき姿勢を常に意識し、各自が、日々、資質の向上を目指す。</p> <p>指標 月1回、互いに点検し合う体制を確立する。</p>	
<p>取組内容②【“体罰絶対悪”の意識を高める】 全教職員が、児童・保護者に寄り添い、自尊感情を高める資質を身につける。</p> <p>指標 月1回、互いに点検し合う体制を確立する。</p>	
<p>取組内容③【「教職員としての生き抜く力」の体現】 全教職員自らが、日々の課題に挑戦し、乗り越えていく「教職員としての生き抜く力」を身につける。</p> <p>指標 月1回、各自が自己点検する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった現状

1 平成24年度の調査結果の概要

	国語		算数・数学		理科	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
平均正答率(%)	80.3	56.0	72.7	59.9	58.1	
平均正答数(問)	13.6/17	6.2/11	13.8/19	7.6/13	14./24	/
平均無解答率(%)	2.1	4	0.8	2.3	1.1	

【添付資料】

- 教科・区分ごとの正答数分布のグラフ
- 領域・観点・形式ごとの正答数分布のレーダーチャート
- 質問紙調査の主な結果
 - ・ 児童生徒質問紙調査の「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目
 - ・ 同調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目
 - ・ 同調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目
 - ・ 同調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目
 - ・ 同調査の「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目
 - ・ 同調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目
 - ・ 同調査の「国語・算数(数学)・理科の授業がよくわかりますか」「国語・算数(数学)・理科は好きですか」の項目

2 自校の取組の成果と課題 (○…成果 ●…課題)

調査項目		成果と課題
国語	A問題【主として「知識」に関する問題】	○「書くこと」「読むこと」が、全国・市を上回っており、「国語に関する児童質問紙」(以下「質問紙」)の52の好結果との関連が考えられる。 ●「話すこと・聞くこと」について、重点的に取り組む必要がある。
	B問題【主として「活用」に関する問題】	○全領域にわたって好結果。特に、「読むこと」以外の3領域は、全国・市を上回っている。 ●実の場に即した「読むこと」の指導を図る必要がある。興味・関心を高める工夫の必要性が「質問紙」から読み取れる。
算数・数学	A問題【主として「知識」に関する問題】	○「数と計算」以外の全ての領域で、全校・市を上回っている。好結果の裏づけとして、「質問紙」の61,64,65から読み取れる。 ●わかりやすい授業づくりに努めることが、「数と計算」の正答率アップにつながるが、「質問紙」の56,58から読み取れる。
	B問題【主として「活用」に関する問題】	○A問題と同様に、「数と計算」以外の全ての領域で、全校、市を上回っているのが特筆すべき点である。 ●A問題と同様に、わかりやすい授業づくりに努めることが、「数と計算」の正答率アップにつながってくる。

理科	<p>○「生命」「エネルギー」が、全国・市を上回っている。「質問紙」78の結果は、この裏づけとして、読み取れる。</p> <p>●「物質」「地球」は、今後、重点的に取り組んでいく必要性が大いに感じられる。</p>
児童生徒質問紙	<p>○「豊かな心」「基本的生活習慣」は、多くの項目で好結果を示している。“地域・家庭の温かいかわり”の賜物と考えられる。特に、全国・市を上回っている「豊かな心」は、特筆すべき点である。</p> <p>●「自尊感情」の育成、「自学自習」の習慣化（「質問紙」5・6）と、「読書する」習慣化を、家庭・地域と連携して図っていく必要がある。</p>
学校質問紙	<p>○大規模校であるにもかかわらず、「3教科の結果」と「生活習慣の結果」がおおむね好数値を示したのは、教職員の資質向上が図られつつあることと、地域・家庭との連携も図られつつあることが伺える。</p> <p>●各項目の該当番号が上位番号（3→2、2→1）になるように、指導の工夫に尽力していくことが痛感される。</p>
その他	<p>○「学力向上」と「豊かな心の育成」のための取組みが同時並行に進んでいることが伺える。</p> <p>●今後、「体力向上」にむけた取組みにも重点的に行っていく必要がある。また、「学力向上」「体力向上」「豊かな心の育成」を支える「教職員の資質向上」を、さらに図っていく必要性が大いに感じられる。</p>

全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果から明らかになった現状

1 平成24年度の調査結果の概要

	種目別平均									合計 得点
	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	持久走 (秒)	20mシャ トルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	
男子	17.48	16.53	37.25	31.38		44.58	9.63	147.40	21.82	50.41
女子	17.07	17.32	42.73	31.26		33.21	9.70	141.00	13.29	53.06

2 自校の取組の成果と課題

成果と課題 (○…成果 ●…課題)
<p>○ 新学習指導要領「体育科」改訂の趣旨や内容をふまえ、個々の教員が研修を深め、指導力を高めてきた。その結果、児童の運動への関心・意欲も確実に高まってきた。</p> <p>また、児童は様々な運動の特性に触れ、運動することの楽しさや運動を通じた友だちとの関わり方について多くのことを学び、積極的に運動や友だちに関わろうとする態度が育ってきた。</p> <p>● 全国体力・運動能力調査結果から、対象児童のほとんどの種目でB、C、D評価が多く、A評価はごく少数（男子4.3% 女子5.63%）である。また、平均値でも、全国・市ともに平均値を上回っているのは、男女とも「握力」「長座体前屈」「50m走」のみであり、他の5種目は、男女ともに全国・市を下回っている。</p> <p>以上の調査結果から、本校のこれまでの取組みが、実質的な体力向上につながっていないことが、明らかになった。</p> <p>今後は、実質的な体力向上につながるような日々の指導法を工夫することや、日常的な体力づくりに継続した取組みが必要と感じられる。</p>

